



PORTABLE PA SYSTEM

STAGEPAS 600 BT

STAGEPAS 400 BT

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



電源 / 電源コード



電源コードが破損するようなことをしない。

- ・ストーブなどの熱器具に近づけない
- ・無理に曲げない
- ・傷つけない
- ・電源コードに重いものをのせない

感電や火災の原因になります。



電源はミキサーに表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。

付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

接続



- 接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行なう。
- 接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行なう。

電源コードには、アース線が付いています。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。



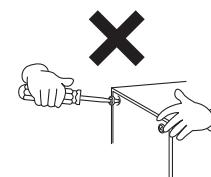
電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。

分解禁止



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

水に注意



禁止

- この機器の上に花瓶や薬品など液体に入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

聴覚障害



禁止

イコライザーやLEVELつまみをすべて最大にしない。

接続した機器の状態によっては、フィードバックが起きて聴覚障害やスピーカーの損傷になることがあります。



必ず実行

- ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。
- 電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に入れる。電源を切るときは、この機器を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

ワイヤレス機器



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

この機器が発生する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

この機器が発生する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード／プラグがいたんだ場合
- 製品から異常なにおいや煙が出た場合
- 製品の内部に異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐにミキサーの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

この機器が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

ミキサーの通風孔(放熱用スリット)をふさがない。

内部の温度上昇を防ぐため、ミキサーの天面と側面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



禁止

ミキサーをスピーカーから取り外して設置する際は、

- ・ 布やテーブルクロスをかけない。
- ・ 天面以外を上にして設置しない。
- ・ 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本機の周囲に上30cm、左右30cm、背面30cm以上のスペースを確保してください。



必ず実行

スピーカーを横置きする場合は、ミキサーをスピーカーから取り外す。

機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



禁止

スピーカーをつり下げるためにスピーカーのハンドルを使用しない。

スピーカーが落下して破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

スピーカーの底面を持って運搬しない。

スピーカーの底面に手をはさんで、けがをしたりする原因になります。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。

故障の原因になります。



必ず実行

この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

接続



必ず実行

ミキサーのSPEAKERS端子には、必ず付属のスピーカーケーブルを使って、スピーカー(MODEL 600SまたはMODEL 400S)を接続する。

それ以外のケーブルおよびスピーカーを使うと、火災や故障の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

この機器をお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

この機器の通風孔やパネル、スピーカーのバスレフポート(前面の穴)のすき間に手や指を入れない。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

この機器の通風孔やパネル、スピーカーのバスレフポート(前面の穴)のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

- ・ この機器の上にのったり重いものをせたりしない。
- ・ ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

この機器が破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。

機器が発熱し、火災の原因になります。



禁止

マイクなどのケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカーやミキサーが転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

注記（使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- 直射日光のある場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色 / 変質する原因になります。
- お手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなつてから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になります。
- 保護回路**：本製品は（自動復帰型の）保護回路を内蔵しています。過大な入力が加わると、保護回路が動作して、音が出なくなります。使用中に音が出なくなった場合は速やかにアンプの音量を下げてください。（数秒～数十秒で自動的に復帰します。）
- バッフル前面を下にして置く場合は、平らな場所に置いてください。
- スピーカーユニットには触れないようにしてください。
- この機器に付属の滑り止めパッドはすべり止め用です。すべりやすい机や台などの上にこの機器を置く場合にご使用ください。
- バスレフポートから空気が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。
- 使用後は、必ず電源をオフにしましょう。

■ コネクターに関する注意

- XLR タイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです (IEC60268 規格に基づいています)。
1: グラウンド (GND)
2: ホット (+)
3: コールド (-)

お知らせ

■ 製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 廃棄に関するお知らせ

- この製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃棄される際には、廃棄する地方自治体にお問い合わせください。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

2.4 FH 1



「2.4」.....2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」.....変調方式は周波数ホッピング (FH-SS 方式)

「1」.....想定干渉距離が 10 m 以内



.....全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。



Bluetooth® およびロゴは Bluetooth SIG の登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板附近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

このたびは、ポータブル PA システム STAGEPAS 600BT、STAGEPAS 400BT(以下 STAGEPAS)をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品はライブや各種イベントでの音楽やスピーチの拡声に使用するポータブル PA システムです。

この取扱説明書では、個人ユーザーまたは企業 / 学校などの備品として音楽やスピーチの拡声に使用するときのセットアップ方法と操作方法について説明しています。本製品のさまざまな機能を十分にご活用いただくために、ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	2
注記（使用上の注意）	5
お知らせ	5
特長	6
モデルの違い	7
スピーカースタンドへの取り付け	7
滑り止めパッドの貼り付け	7
各部の名称と機能	8
クイックスタートガイド	11
Bluetooth® 機器を使う	15
困ったときは	16
仕様	17
アフターサービス	23
保証書	24

特長

- あらゆるパフォーマンスをサポートする高出力のパワーアンプ。
- 高品位でパワフルなサウンドを実現する 2way バスレフ型スピーカー。
- さまざまな入力に対応する多チャンネルミキサー。
- スマートフォンやタブレットの音源をワイヤレスで再生可能な高音質 Bluetooth 入力
- 生演奏やボーカルに最適な SPX グレードの高品質なリバーブ。
- 不快なハウリングを自動的に抑えるフィードバックサプレッサー。
- チャンネルごとに音作りが可能なイコライザー。

同梱品（お確かめください）

- 本体
(専用スピーカー (STAGEPAS 600BT : MODEL 600S、
STAGEPAS 400BT : MODEL 400S)2 台、パワードミキサー 1 台)
- 電源コード (2m) 1 本
- スピーカーケーブル (6m) 2 本
- 滑り止めパッド 12 枚
- フェライトコア 2 個
- 結束バンド 2 本
- 取扱説明書 (本書) : 保証書は 24 ページにあります。

モデルの違い

STAGEPAS の Bluetooth 搭載モデルには 2 種類あります。それぞれのモデルによるミキサー機能の違いは次の表のとおりです。

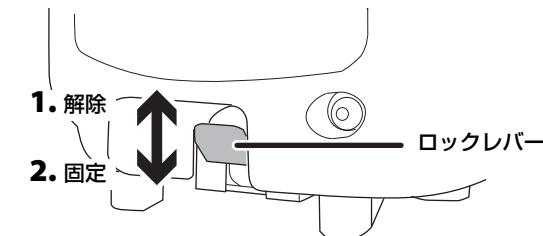
モデル名	ライン入力チャンネル	イコライザー
STAGEPAS 600BT	CH 5/6、CH7/8、CH9/10	高音域 (HIGH)、中音域 (MID)、低音域 (LOW)
STAGEPAS 400BT	CH 5/6、CH7/8	高音域 (HIGH)、低音域 (LOW)

NOTE

この取扱説明書では、主に STAGEPAS 600BT を使って説明しています。

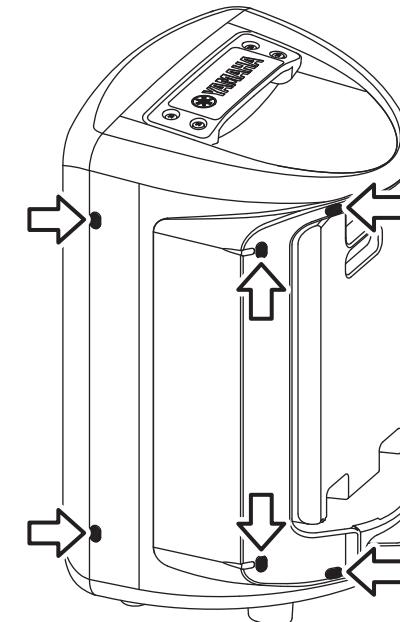
スピーカースタンドへの取り付け

- ロックレバーを上に上げた状態(解除)でスタンドに取り付けます。
- ロックレバーを下に下げてスタンドに固定します。

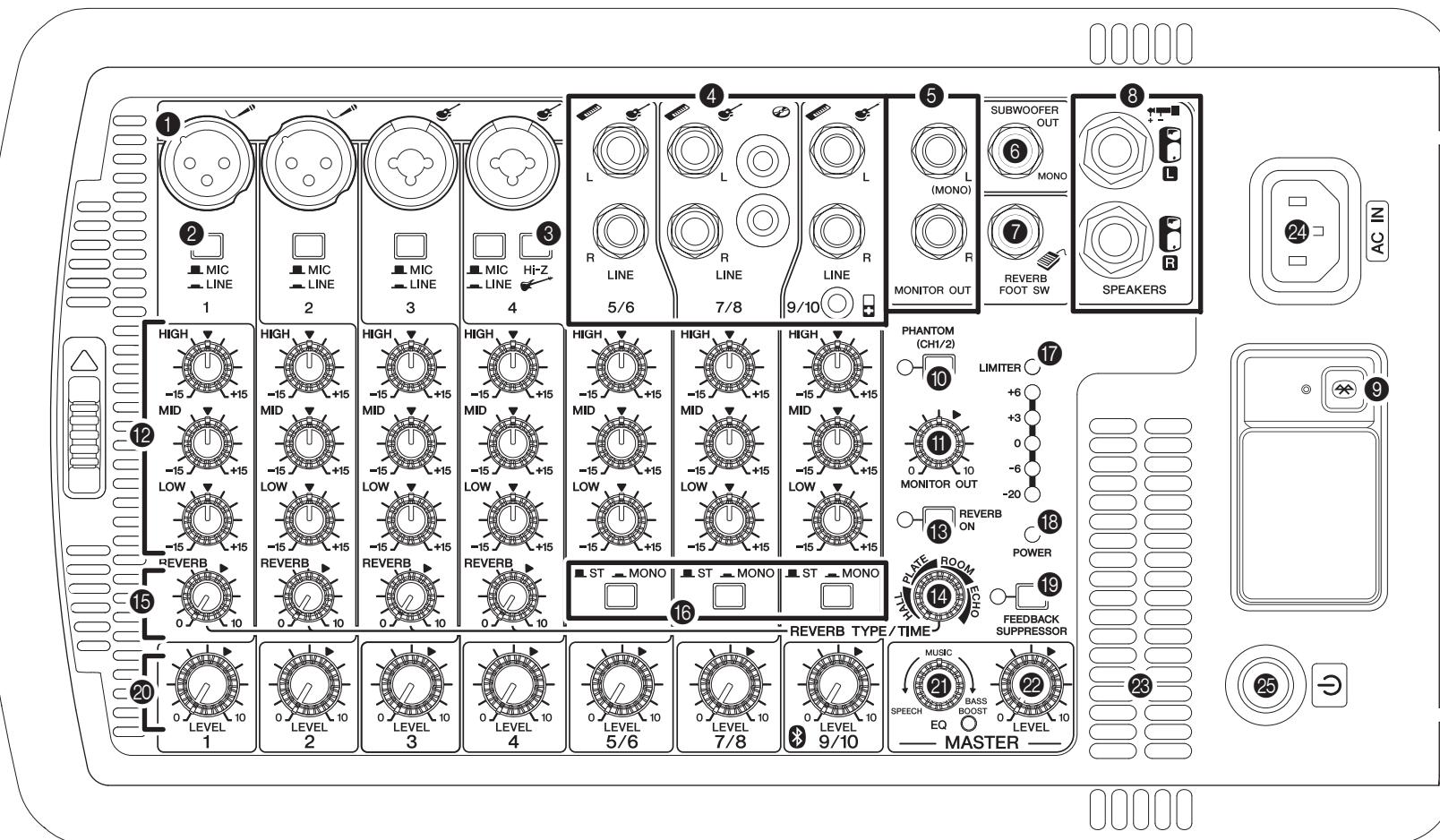


滑り止めパッドの貼り付け

横置きする場合は、付属の滑り止めパッドを図の矢印の位置に貼り付けてください。



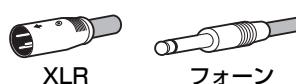
各部の名称と機能



① マイク / ライン入力端子 (チャンネル 1 ~ 4)

マイク、ギター、電子楽器、オーディオ機器などを接続します。

チャンネル 3 と 4 は XLR、フォーンの両プラグに対応したコンボ端子です。



XLR

フォーン

② MIC/LINE スイッチ (チャンネル 1 ~ 4)

マイクなど入力信号のレベルが低い機器を接続したチャンネルは MIC(■) にします。電子楽器やオーディオ機器など入力信号のレベルが高い機器を接続したチャンネルは LINE(□) にします。

③ Hi-Z スイッチ (チャンネル 4)

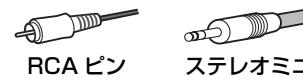
電池を使わないエレクトリックアコースティックギター やエレクトリックベースなどの、パッシブピックアップの楽器を接続するときにスイッチをオンにすると、DI(ダイレクトボックス) なしで直接ミキサーに接続できます。この機能はフォーンでの入力時のみ有効です。

④ ライン (ステレオ) 入力端子

STAGEPAS 600BT(チャンネル 5/6, 7/8, 9/10)

STAGEPAS 400BT(チャンネル 5/6, 7/8)

電子楽器、エレクトリックアコースティックギター、CD プレーヤー、ポータブルオーディオプレーヤーなどラインレベルの機器を接続します。フォーン、RCA ピン、ステレオミニのプラグに対応しています。



NOTE

チャンネル 7/8 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 5/6 (STAGEPAS 400BT) でフォーン端子と RCA ピン端子に機器が同時に接続された場合は、フォーン端子が優先され、チャンネル 9/10 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 7/8 (STAGEPAS 400BT) でフォーン端子とステレオミニ端子に機器が同時に接続された場合は、ステレオミニ端子が優先されます。もう一方の端子に接続された機器の信号はミュートされます。チャンネル 9/10 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 7/8 (STAGEPAS 400BT) には ⑨ の Bluetooth 機器からの信号が常にミックスされます。

⑤ MONITOR OUT 端子

モニター用のパワードスピーカーなどを接続します。チャンネル 1 ~ 9/10 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 1 ~ 7/8 (STAGEPAS 400BT) の信号がミックスされて出力されます。出力レベルは、⑪ の MONITOR OUT ツマミで調節します。L(MONO) 端子だけを使うと、L と R の信号がミックスされて出力されます。

⑥ SUBWOOFER OUT 端子

パワードサブウーファーを接続します。モノラル信号が出力されます。この端子が使われているときは、SPEAKERS L/R 端子への 120Hz 以下の信号がカットされます。出力レベルは ⑫ の MASTER LEVEL ツマミと連動しています。

⑦ REVERB FOOT SW 端子

フットスイッチ (ヤマハ FC5 などのアンラッチタイプ) を接続します。リバーブのオン / オフを足元で切り替えできますので、ワンマンパフォーマンスのときに便利です。

⑧ SPEAKERS L/R 端子

付属のスピーカーケーブルを使って、専用スピーカーと接続します。

⑨ Bluetooth ボタン / LED

Bluetooth 機能のオン / オフを切り替えます。また、ペアリング (Bluetooth 機器の登録) (15 ページ) で使用します。Bluetooth LED は以下の状態を示します。

LED	ステータス
消灯	Bluetooth オフ
点灯	Bluetooth 接続状態
ゆっくり点滅	Bluetooth 接続待機状態
早く点滅	Bluetooth ペアリング状態

NOTE

STAGEPAS は、最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリング (登録) できます。9 台目の Bluetooth 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い Bluetooth 機器の登録情報が削除されます。

⑩ PHANTOM(CH1/2) スイッチ / LED

スイッチをオンにすると、LED が点灯してチャンネル 1 と 2 にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクや DI(ダイレクトボックス) に電源供給するときは、このスイッチをオンにしてください。

注記

本体および外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の点にご注意ください。

- ファンタム電源が不要なときや、チャンネル 1 と 2 にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、スイッチをオフにする。
- スイッチをオンにしたまま、チャンネル 1 と 2 でケーブルの抜き差しをしない。
- チャンネル 1 と 2 の LEVEL を最小にしてから、スイッチをオン / オフする。

⑪ MONITOR OUT ツマミ

⑤ の MONITOR OUT 端子から出力される信号レベルを調節します。

MASTER LEVEL ツマミの影響は受けません。

⑫ イコライザーツマミ (HIGH, MID*, LOW) *STAGEPAS 600BT のみ

3 バンドイコライザーで、各チャンネルの高音域 (HIGH)、中音域 (MID)*、低音域 (LOW) を調節します。ツマミをセンター位置 (▼) にするとフラットな特性となります。ツマミを右に回すとその音域が強調されます。ハウリングする場合は、少し左に回してその音域を抑えます。

⑬ REVERB スイッチ / LED

スイッチをオンにすると LED が点灯して、リバーブ (残響音 / エコー) をかけることができます。電源を入れたときは、オフの状態になっています (他のスイッチとは異なりこのスイッチはロックしません)。

⑭ REVERB TYPE/TIME ツマミ

リバーブの種類と長さを設定します。ツマミを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。

HALL: ホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブです。

PLATE: 鉄板の響きをシミュレートしたリバーブです。硬めで明るい残響感が得られます。

ROOM: 小さな空間(部屋)の響きをシミュレートしたリバーブです。

ECHO: ボーカル用途に最適なエコーです。

⑮ REVERB ツマミ(チャンネル1～4)

⑯のREVERBスイッチがオンの状態で、各チャンネルのリバーブの量を調節します。

⑯ ST/MONOスイッチ

STAGEPAS 600BT(チャンネル5/6、7/8、9/10)

STAGEPAS 400BT(チャンネル5/6、7/8)

ST(STEREO)(■)にすると、L(左)とR(右)の信号がそれぞれ左右のスピーカーに割り振られて出ます。MONO(—)にすると、LとRの信号がミックスされて左右どちらのスピーカーからも同じ音が出ます。ギターやモノラル出力のキーボードなど音源がステレオでない場合にMONO(—)にすれば、ステレオ入力端子を複数のモノラル端子として活用できるので便利です。

⑰ LEVELメーター

SPEAKERS L/R端子から出力される信号のレベルを表示します。

注記

LIMITER LEDが長い間点滅し続けるほど大音量でお使いになると、内蔵のパワーアンプに過大な負担がかかり、故障の原因になります。信号の最大入力時に一瞬点灯する程度以下になるように、MASTER LEVELツマミで音量を下げてください。

⑱ POWER LED

電源スイッチを押してオンにすると点灯します。

⑲ FEEDBACK SUPPRESSOR(フィードバックサプレッサー)スイッチ/LED

スイッチをオンにするとLEDが点灯して、ハウリング(フィードバック)を自動的に抑えることができます。(7バンドのノッチフィルターが動作します。このスイッチまたは電源スイッチをオフにすると、ノッチフィルターはリセットされます。)

⑳ LEVELツマミ

各チャンネルの音量を調節します。ノイズを減らすために、使わないチャンネルのツマミは最小「0」にしておいてください。

㉑ MASTER EQ(イコライザー)ツマミ

全体の音の周波数バランスを調節します。センター位置(MUSIC)を基本として左に回すと低音域が抑えられスピーチに適した特性になります。右に回すと低音域がブーストされ再生音源などに適した特性になります。さらに右に回していくと低音ブースト機能がオンになってLEDが点灯し、より迫力のある低音が得られます。

㉒ MASTER LEVELツマミ

SPEAKERS L/Rから出力される音量を調節します。各チャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。

㉓ 通風孔

ミキサー内部の冷却ファン用の通風孔です。
使用時はふさがないようにしてください。

㉔ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

㉕ ♂(電源)スイッチ

電源をオン(—)/オフ(■)します。

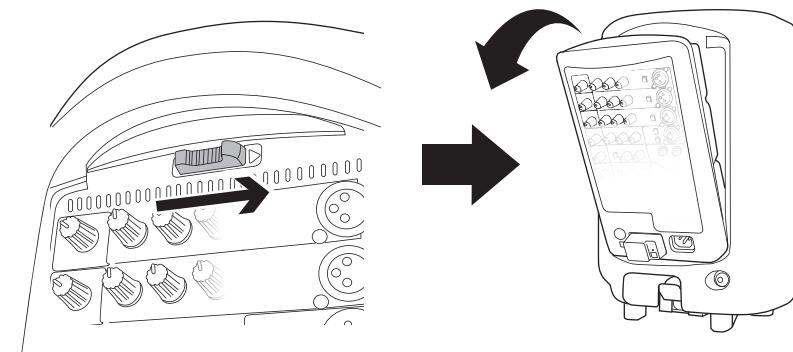
NOTE

電源のオン/オフを連続してすばやく切り替えると誤動作の原因になりますので、電源をオフにしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。

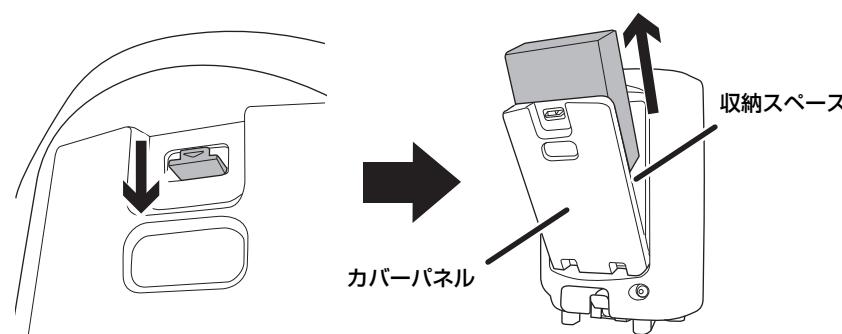
クイックスタートガイド

スピーカーとミキサーをつなぐ

1. ミキサーのロックを下の図のように矢印の方向へスライドさせて、スピーカーからミキサーを取り外します。



2. もう一方のスピーカーのカバーパネルを開けて、中の箱を取り出します。
箱の中にはスピーカーケーブル2本と電源コード1本が入っています。

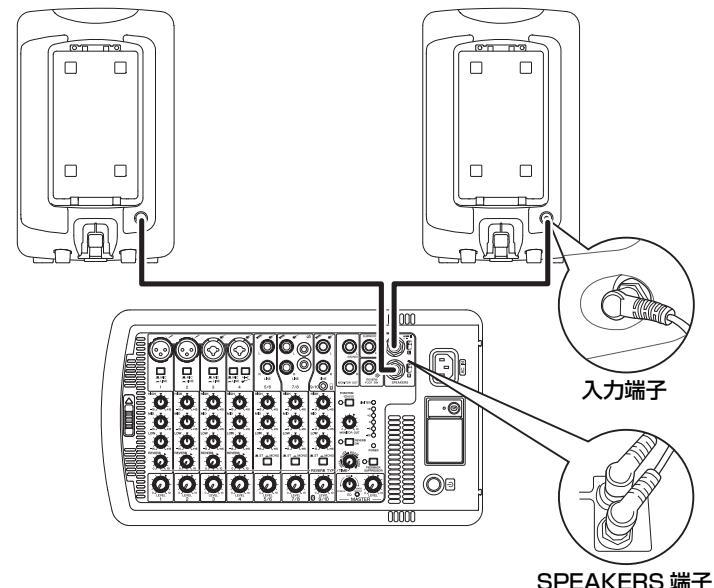


NOTE

箱を取り出したあとは、収納スペースに電源コード、スピーカーケーブル、マイク（別売）などを収納できます。

3. スピーカーとミキサーを接続します。

付属のスピーカーケーブルを使って、ミキサーの SPEAKERS 端子（赤）とスピーカーの入力端子（赤）を接続します。スピーカーケーブルは下の図のように奥までしっかり差し込んでください。



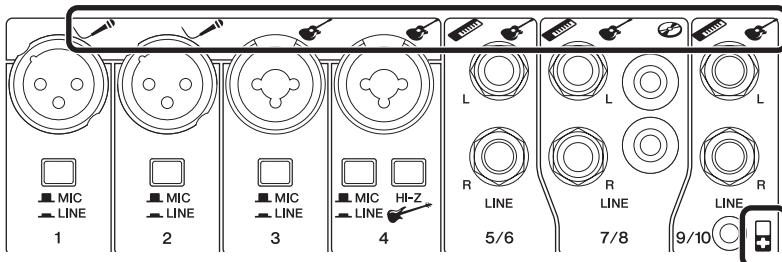
注記

必ず付属のスピーカーケーブルをお使いください。他のケーブルを使うと、発熱やショートの原因になります。

ミキサーにマイク / 楽器 / オーディオ機器をつなぐ

4. マイクや楽器などを、ミキサーの入力端子に接続します。

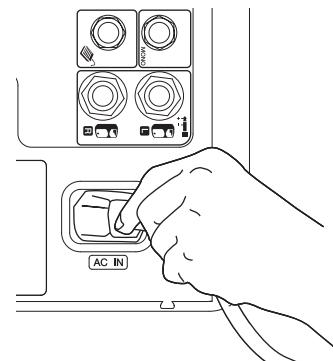
ミキサー上のイラストや、カバーパネルの接続例を参考にしてください。



スピーカーから音を出す

5. 次の順番で、付属の電源コードを接続します。電源コードを接続する前に、STAGEPASの電源がオフになっていることを確認してください。

5-1 付属の電源コードのプラグを本体リアパネルのAC IN端子に接続します。



5-2 電源コードのもう一端のプラグを電源コンセントに接続します。

NOTE

電源コードを外すときは、逆の手順で行なってください。



警告

STAGEPASは、アース接続を行なうことを前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、付属の電源コードを使ってアース接続を確実に行ってください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。



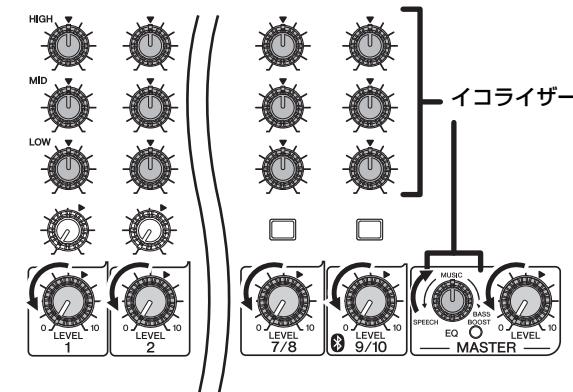
警告

電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。

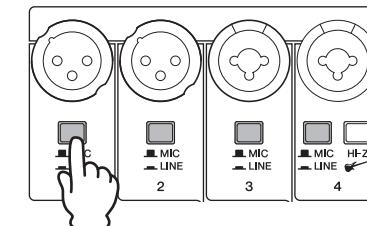
注記

パワースイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

6. MASTER LEVEL(赤のツマミ)とLEVEL(白のツマミ)を「0」に下げます。 イコライザー(緑のツマミ)をセンター位置「▼」や「MUSIC」に合わせます。

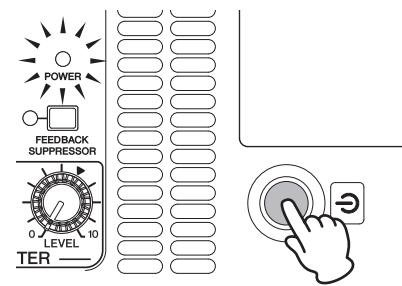


7. マイクを接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチはMIC(■)に、楽器やオーディオ機器などを接続したチャンネルはLINE(▬)にします。

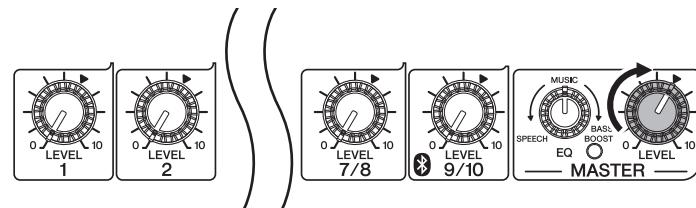


8. 楽器やオーディオ機器などの電源をオンにしてから、ミキサーの電源をオンにします。

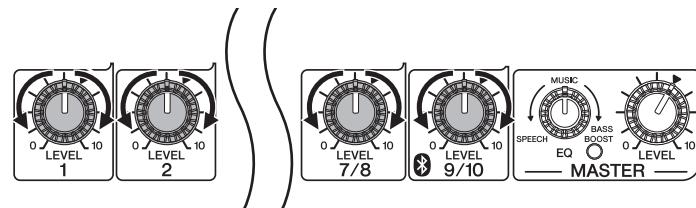
POWER LED が点灯します。



9. MASTER LEVELを「▼」の位置に合わせます。



10. マイクや楽器で音を出しながら、LEVELで各チャンネルの音量を調節します。



11. MASTER LEVELで全体の音量を調節します。

音が出れば、準備は完了です。音が出ない場合は、「困ったときは？」のチェック項目をご確認ください。

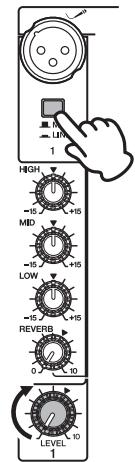
NOTE

電源をオフにするときは、スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、ミキサー→楽器やオーディオ機器の順で電源をオフにしてください。

音量が大きすぎたり、小さすぎたりするときは？

● 音量が大きすぎると

いったん LEVEL を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを LINE(■) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。



● 音量が小さすぎると

いったん LEVEL を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを MIC(■) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。

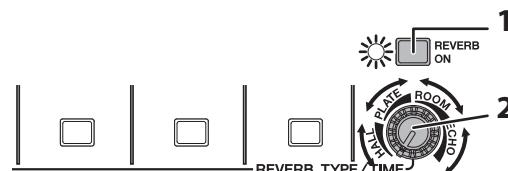
リバーブをかける

STAGEPAS はヤマハマルチエフェクター SPX シリーズと同クラスのリバーブ（残響音 / エコー）を内蔵しています。以下の手順でリバーブをかけることによって、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような音の広がりや響きが得られます。それぞれのタイプの特長は以下のとおりです。

タイプ	説明
HALL	コンサートホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブ効果です。アコースティックギターやストリングスや木管楽器などに向いています。
PLATE	プレート（鉄板）エコーをシミュレートしたリバーブ効果です。明るい響きでボーカルなどに向いています。
ROOM	小さな空間での響きをシミュレートしたリバーブ効果です。パーカッションなどアタックの強い楽器に向いています。
ECHO	繰り返し音のはっきりしたエコー効果です。ボーカルなどに向いています。

1. REVERBスイッチを押してオンにします。

オンのときに LED が点灯します。



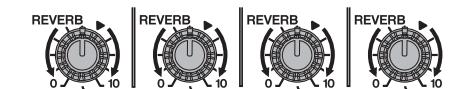
2. REVERB TYPE/TIMEのツマミの位置で、リバーブの種類と長さを設定します。

ツマミを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。



3. REVERBで各チャンネルのリバーブの量を調節します。

必要に応じて手順 2 と 3 を繰り返し、最適なかかり具合を調節します。



Bluetooth® 機器を使う

モバイル端末などの Bluetooth 機器に保存されている音声ファイルを STAGEPAS で再生します。

Bluetooth® 機器を登録する（ペアリング）

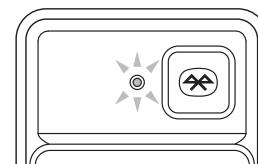
Bluetooth 機器を使って初めて接続する場合は、ペアリングが必要になります。ペアリングとは Bluetooth 機器どうしをあらかじめ登録することです。

一度ペアリングすると、Bluetooth 接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

1. Bluetooth LEDが消灯していることを確認してください。点灯または点滅している場合は、Bluetoothボタンを押し、Bluetooth機能を一度オフにしてください。

2. Bluetoothボタンを3秒以上押し続けます。

Bluetooth LED が早く点滅し、ペアリングの待機状態になります。

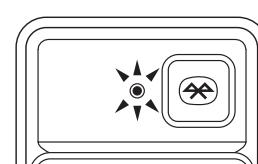


3. Bluetooth機器側のBluetooth機能をオンにします。

詳しい操作方法は Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

4. Bluetooth機器側でBluetooth機器の接続リストが表示されたら、リストから STAGEPAS 600BT または STAGEPAS 400BT を選びます。

ペアリングが完了すると、Bluetooth 接続し、Bluetooth LED が点灯します。



NOTE

- STAGEPAS は、最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリング（登録）できます。9 台目の Bluetooth 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い Bluetooth 機器の登録情報を削除されます。
- Bluetooth 機器側の設定は、2 分以内に行ってください。

Bluetooth® 機器を接続する

1. Bluetoothボタンを1秒程度押します。

Bluetooth LED がゆっくり点滅し、接続の待機状態になります。

2. Bluetooth機器側のBluetooth機能をオンにします。

お使いの機器の Bluetooth 機器の接続リストから STAGEPAS 600BT または STAGEPAS 400BT を選びます。接続が完了すると、Bluetooth LED が点灯します。

Bluetooth® 機器の音声ファイルを再生する

Bluetooth機器を操作して曲を再生します。

STAGEPAS 600BT はチャンネル 9/10、STAGEPAS 400BT はチャンネル 7/8 に入力されます。

Bluetooth 機器側の音量を大きめに設定してから、LEVEL つまみでチャンネルの音量を調整することをおすすめします。

スマートフォンなどの Bluetooth 機器で音声ファイルを再生しているときに、電話やメールなどの着信が入ると、音声ファイルの再生が一時停止される場合があります。一時停止を防ぐには「機内モード」に設定してから、Bluetooth を ON に設定してください。

Bluetooth® 機器との接続を切断する

Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作を行います。

- Bluetooth 機器側で切断操作をする (Bluetooth LED がゆっくり点滅し、接続の待機状態になります)。
- Bluetooth ボタンを押して、Bluetooth 機能をオフにする (Bluetooth LED が消灯します)。

注記

電源をオフにするときは、Bluetooth 機能がオフ (Bluetooth LED が消灯) になっていることを確認してください。Bluetooth 機能がオンの状態で電源をオフにすると、ペアリング登録情報を失う場合があります。

NOTE

Bluetooth 機能をオフにしてから再度オンにする場合は、6 秒以上の間隔を空けてください。オフにした直後に Bluetooth ボタンを押しても、Bluetooth 機能はオンになりません。

困ったときは

電源が入らない

- 電源コードを奥までしっかり差し込みましたか？

突然、電源が切れた

- ミキサーの通風孔をふさいでいませんか？

放熱が不十分でミキサーに熱がこもると、過熱保護のため電源が切れます。冷却用の通風を確保してから、再度電源を入れてください。

音が出ない

- ミキサーの SPEAKERS 端子とスピーカーの入力端子をスピーカーケーブルで接続しましたか？

- スピーカーケーブルを奥までしっかり差し込みましたか？

- 本体スピーカー以外のスピーカーをミキサーの SPEAKERS 端子に接続していませんか？

本体スピーカー (STAGEPAS 600BT: MODEL 600S, STAGEPAS 400BT: MODEL 400S) を接続してください。

- 付属のスピーカーケーブルを使っていますか？

市販のケーブルでコネクターのハウジングが金属のものをお使いになると、コネクターが他の金属に接触した場合に、回線がショートして音が出なくなることがあります。

- POWER LED が周期的に点滅していませんか？

スピーカーケーブルがショートしている場合があります。スピーカーケーブルが正しく接続されているか、傷がないかを確認してから、再度電源をオンにしてください。

- チャンネル 7/8(STAGEPAS 600BT)、チャンネル 5/6(STAGEPAS 400BT) でフォーン端子と RCA ピン端子の両方に接続していませんか？

またはチャンネル 9/10(STAGEPAS 600BT)、チャンネル 7/8(STAGEPAS 400BT) でフォーン端子とステレオミニ端子の両方に接続していませんか？

チャンネル 7/8 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 5/6 (STAGEPAS 400BT) ではフォーン端子、チャンネル 9/10 (STAGEPAS 600BT)、チャンネル 7/8 (STAGEPAS 400BT) ではステレオミニ端子が優先されます。

- POWER LED が連続して点滅していませんか？

内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかると、保護のためアンプがミュートして音が出なくなります。しばらくすると自動復帰します。

音が歪んだり、雑音が入る

- 各チャンネルの LEVEL や MASTERLEVEL が上がりすぎていませんか？

- MIC/LINE スイッチが MIC になっていませんか？

音源からの入力レベルが大きい場合、MIC/LINE スイッチを MIC にしていると、音が歪むことがあります。スイッチを LINE にしてみてください。

- ミキサーに接続した機器のボリュームが大きすぎませんか？

外部機器のボリュームを下げてみてください。

- スピーカーケーブルや電源コードが入力ケーブルの近くにありませんか？

入力ケーブルから離してください。

音が小さい

- 各チャンネルの LEVEL や MASTERLEVEL が下がりすぎていませんか？

- 各チャンネルの MIC/LINE スイッチが LINE になっていませんか？

LEVEL を「0」にしてからスイッチを MIC に切り替えて、徐々に LEVEL を上げてみてください。

- ミキサーに接続した機器のボリュームが小さすぎませんか？

外部機器のボリュームを上げてみてください。

- ファンタム電源が必要なマイクを使用している場合は、PHANTOM スイッチがオンになっていますか？

高音・低音のバランスが悪い

- イコライザーを上げすぎ、または下げすぎていませんか？
イコライザーをセンター位置にしてみてください。

- スピーカーから高音域は出ていますか？

高音が出ていない場合は、注記の保護回路 (ポリスイッチ) の項をご確認ください。

Bluetooth 接続ができない / Bluetooth の音が途切れる

- 別の Bluetooth 機器と接続されていませんか？

現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。

- STAGEPAS と Bluetooth 機器の距離が離れすぎていませんか？

STAGEPAS と Bluetooth 機器が接続できる距離は最大 10m です。STAGEPAS と Bluetooth 機器を近づけてください。

- お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していますか？

A2DP 対応の Bluetooth 機器をお使いください。

- 2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの (ワイヤレスマイクの送信機、無線 LAN 機器、電子レンジなど) がそばにありませんか？

STAGEPAS を電磁波を発するものから離して設置してください。

- Bluetooth 機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。

上記を確認しても、症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

仕様

一般仕様

	STAGEPAS 600BT	STAGEPAS 400BT
システムタイプ	パワードミキサー + パッシブスピーカー x2	
最大出力 (SPEAKERS L/R)	340 W + 340 W/4 Ω @ダイナミック at 1 kHz 280 W + 280 W/4 Ω @10 % THD at 1 kHz ≥ 230 W + 230 W/4 Ω @1 % THD at 1 kHz	200 W + 200 W/4 Ω @ダイナミック at 1 kHz 180 W + 180 W/4 Ω @10 % THD at 1 kHz ≥ 125 W + 125 W/4 Ω @1 % THD at 1 kHz
周波数特性	-3 dB, +1 dB @40 Hz ~ 20 kHz, 1 W 出力 / 4 Ω (EQ and SP EQ を除く) (SPEAKERS L/R) -3 dB, +1 dB @40 Hz ~ 20 kHz, +4 dBu 10 kΩ Load (MONITOR OUT)	
全高調波歪率	≤ 0.5 % @20 Hz ~ 20 kHz, +11 dBu 10 kΩ (MONITOR OUT)	
ハム & ノイズ (Rs=150 Ω, MIC/LINE スイッチ =MIC)	≤ -113 dBu 入力換算ノイズ (CH1 ~ 4) ≤ -58 dBu 残留ノイズ (SPEAKERS L/R)	≤ -113 dBu 入力換算ノイズ (CH1 ~ 4) ≤ -60 dBu 残留ノイズ (SPEAKERS L/R)
クロストーク (1 kHz)	≤ -70 dB 入出力間	
ファンタム電源	+30 V (CH1/2)	
出力	SPEAKERS OUT (L, R), MONITOR OUT (L/MONO, R), SUBWOOFER OUT (MONO) オートHPF 機能付き	
外形寸法 (W × H × D)	スピーカー 335 × 545 × 319 mm ミキサー 348 × 197 × 135 mm	スピーカー 289 × 472 × 275 mm ミキサー 308 × 180 × 116 mm
質量	25.6 kg (スピーカー 10.9 kg x2 + ミキサー 3.8 kg)	18.3 kg (スピーカー 7.7 kg x2 + ミキサー 2.9 kg)
電源電圧	100 V - 240 V, 50 Hz/60 Hz	
消費電力	35 W (Idle), 100 W (1/8 出力)	30 W (Idle), 70 W (1/8 出力)

	STAGEPAS 600BT	STAGEPAS 400BT
入力チャンネルアイコライザー特性	最大可変幅 (± 15 dB) HIGH 8 kHz シェルビングタイプ MID 2.5 kHz ピーキングタイプ LOW 100 Hz シェルビングタイプ	最大可変幅 (± 15 dB) HIGH 8 kHz シェルビングタイプ — LOW 100 Hz シェルビングタイプ
Bluetooth 接続		
Bluetooth バージョン	Bluetooth Ver.4.1	
対応プロファイル	A2DP v1.2	
対応コーデック	SBC、AAC	
対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式によるコンテンツ保護に対応	
無線出力	Bluetooth class 2	
最大通信距離	約 10 m	
送信周波数範囲	2402 ~ 2480MHz	
無線最大出力電力	4dBm	
同梱品	本体 (スピーカー (MODEL 600S)2 台、 パワードミキサー 1 台)、 電源コード (2m)1 本、 スピーカーケーブル (6m)2 本、 滑り止めパッド 12 枚、 フェライトコア 2 個、 結束バンド 2 本、 取扱説明書 (本書)	本体 (スピーカー (MODEL 400S)2 台、 パワードミキサー 1 台)、 電源コード (2m)1 本、 スピーカーケーブル (6m)2 本、 滑り止めパッド 12 枚、 フェライトコア 2 個、 結束バンド 2 本、 取扱説明書 (本書)

■ 専用スピーカー

	MODEL 600S	MODEL 400S
エンクロージャー	2way バスレフ型	
スピーカーユニット	LF: 10" (25 cm) コーン HF: 1.4" (3.56 cm) コンプレッションドライバー	LF: 8" (20 cm) コーン HF: 1" (2.54 cm) コンプレッションドライバー
クロスオーバー周波数	2.8 kHz	3.2 kHz
再生周波数帯域	55 Hz ~ 20 kHz (-10 dB)	
最大出力音圧レベル	129 dB SPL (実測値ピーク IEC ノイズ @1m)	125 dB SPL (実測値ピーク IEC ノイズ @1m)
指向角	水平 90° 垂直 60°	

入力仕様

■ STAGEPAS 600BT

入力端子		MIC/LINE	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル			端子仕様
					感度	ノミナル	最大ノンクリップ	
CH IN 1-2	XLR	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLR-3-31 タイプ
		LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu	
CH IN 3-4	XLR	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLR コンボ
		LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu	
	Phone	MIC	10 kΩ (Hi-Z 1 MΩ)	150 Ω Lines (Hi-Z 10 kΩ)	-50 dBu	-29 dBu	-4 dBu	
		LINE			-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	
CH IN 5/6	Phone	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フォーン*
CH IN 7/8	Phone	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フォーン*
	Pin	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	RCA ピン
CH IN 9/10	Phone	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-18 dBu	+3 dBu	+28 dBu	フォーン*
	mini	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-18 dBu	+3 dBu	+28 dBu	ステレオミニ

■ STAGEPAS 400BT

入力端子		MIC/LINE	入力インピーダンス	適合インピーダンス	入力レベル			端子仕様
					感度	ノミナル	最大ノンクリップ	
CH IN 1-2	XLR	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLR-3-31 タイプ
		LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu	
CH IN 3-4	XLR	MIC	3 kΩ	150 Ω Mics	-56 dBu	-35 dBu	-10 dBu	XLR コンボ
		LINE			-30 dBu	-9 dBu	+16 dBu	
	Phone	MIC	10 kΩ (Hi-Z 1 MΩ)	150 Ω Lines (Hi-Z 10 kΩ)	-50 dBu	-29 dBu	-4 dBu	
		LINE			-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	
CH IN 5/6	Phone	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	フォーン*
	Pin	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-24 dBu	-3 dBu	+22 dBu	RCA ピン
CH IN 7/8	Phone	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-18 dBu	+3 dBu	+28 dBu	フォーン*
	mini	—	10 kΩ	150 Ω Lines	-18 dBu	+3 dBu	+28 dBu	ステレオミニ

出力仕様

■ STAGEPAS 600BT

出力端子	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル				端子仕様
			ノミナル	最大ノンクリップ	Typ at THD+N 10%	ダイナミック	
SPEAKERS OUT [L,R]	<0.1 Ω	4 Ω Speakers	62.5 W	230 W	280 W	340 W	フォーン*
MONITOR OUT [L,R]	600 Ω	10 kΩ Lines	+4 dBu	+20 dBu	—	—	フォーン*
SUBWOOFER OUT	150 Ω	10 kΩ Lines	-3 dBu	+17 dBu	—	—	フォーン*

■ STAGEPAS 400BT

出力端子	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル				端子仕様
			ノミナル	最大ノンクリップ	Typ at THD+N 10%	ダイナミック	
SPEAKERS OUT [L,R]	<0.1 Ω	4 Ω Speakers	37.5 W	125 W	180 W	200 W	フォーン*
MONITOR OUT [L,R]	600 Ω	10 kΩ Lines	+4 dBu	+20 dBu	—	—	フォーン*
SUBWOOFER OUT	150 Ω	10 kΩ Lines	-3 dBu	+17 dBu	—	—	フォーン*

0 dBu=0.775 Vrms

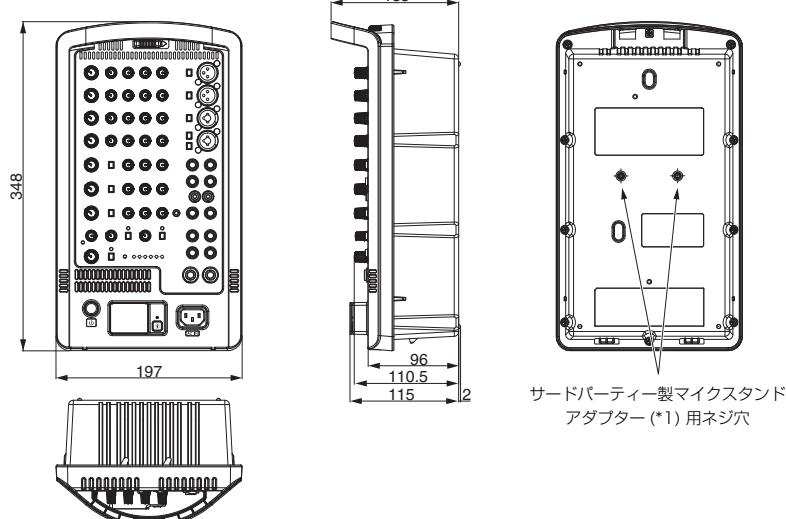
フォーン*: アンバランス型

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

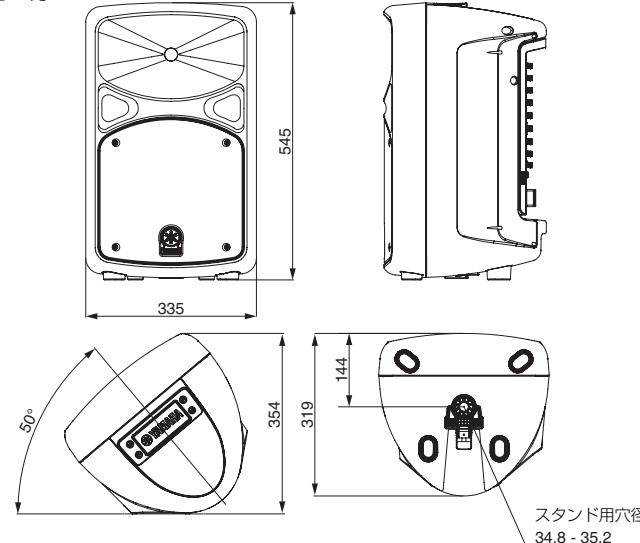
寸法図

■ STAGEPAS 600BT

ミキサー

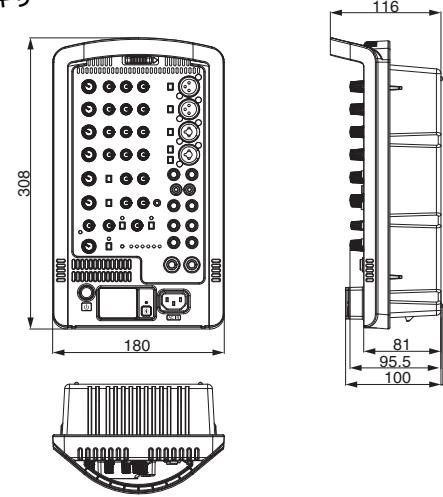


専用スピーカー



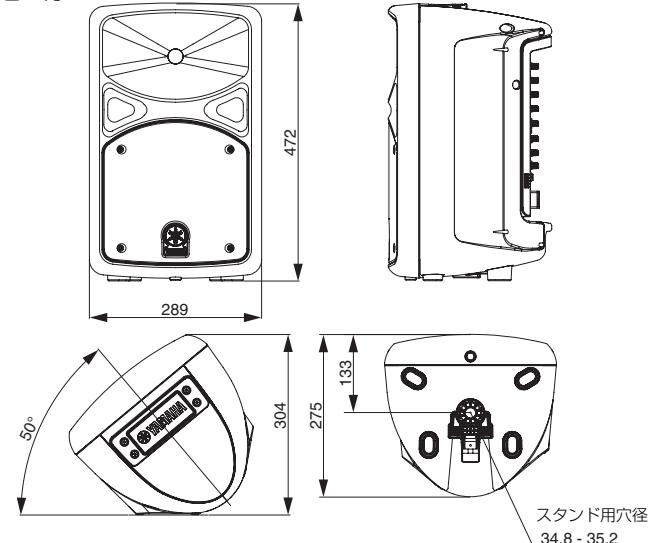
■ STAGEPAS 400BT

ミキサー



サードパーティ製マイクスタンドアダプター(*1)用ネジ穴

専用スピーカー

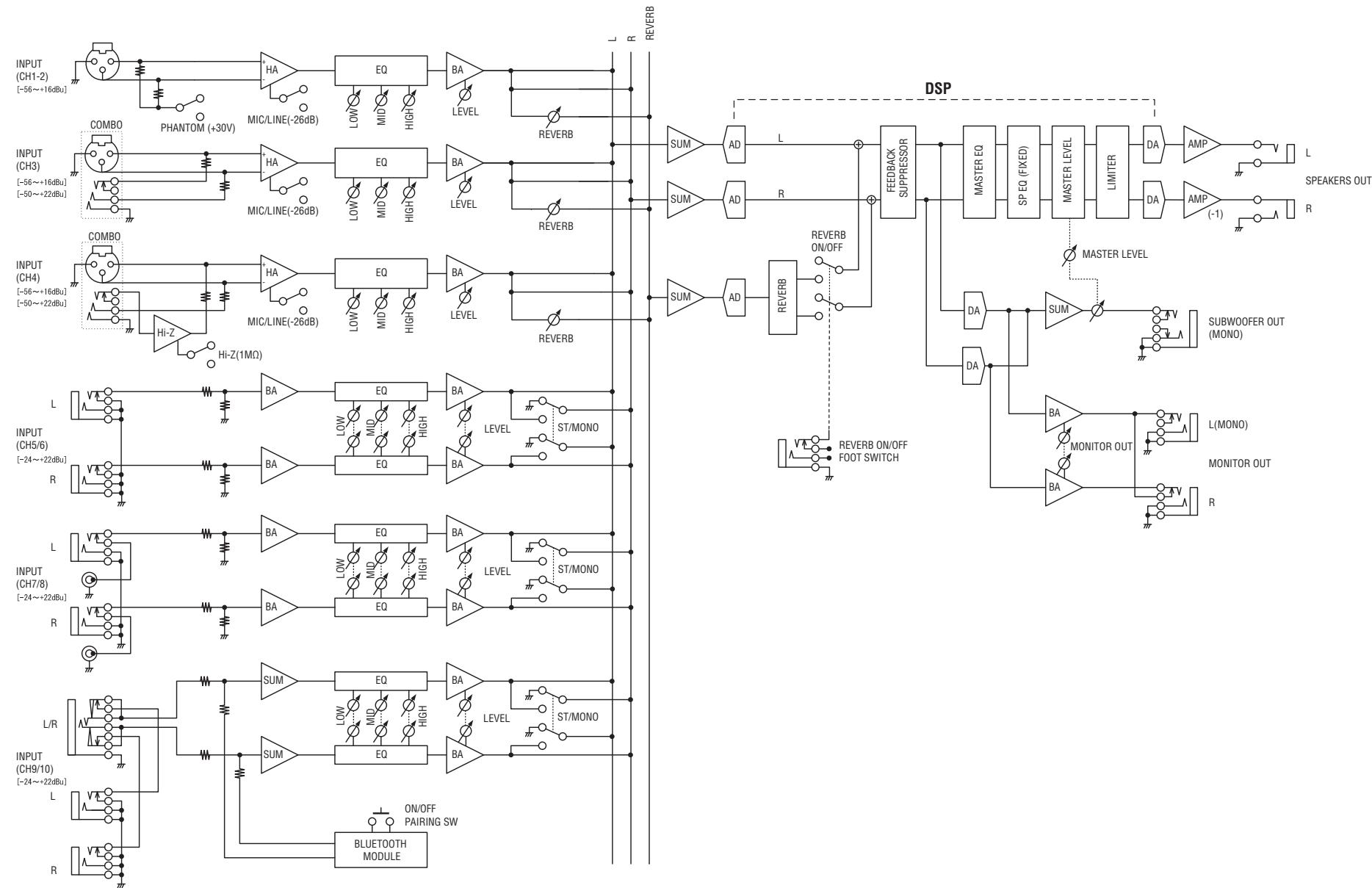


*1 サードパーティ製のアクセサリーについては、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。
<https://www.yamahaproaudio.com/>

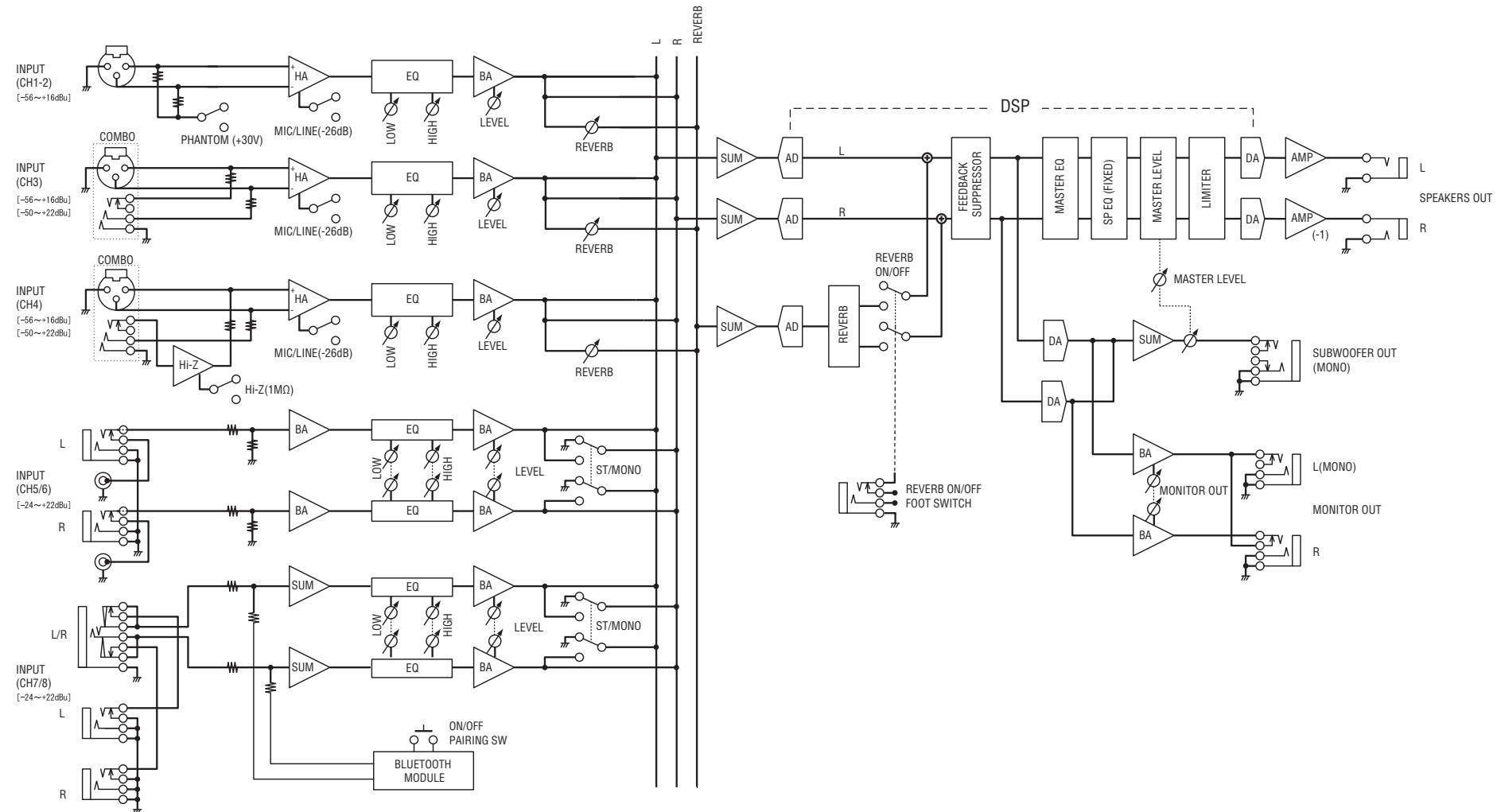
単位:mm

ブロック図

■ STAGEPAS 600BT



■ STAGEPAS 400BT



アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター



0570-050-808

※ 固定電話は全国市内通話料金をご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**

受付時間 月曜日～金曜日 11:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

オンラインサポート <https://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

※ 固定電話は全国市内通話料金をご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX **03-5762-2125** 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)

06-6649-9340 西日本 (北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

修理品お持込み窓口

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F

FAX **03-5762-2125**

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F

FAX **06-6649-9340**

受付時間

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12 KDX箱崎ビル

保証と修理について

保証と修理についての詳細は下記のとおりです。

●保証書

本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

●保証期間と期間中の修理

保証書をご覧ください。保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするのかは、製品ごとに定められています。

●保証期間経過後の修理

ご要望により有料にて修理させていただきます。

使用時間や使用環境などで劣化する下記の有寿命部品などは、消耗劣化に応じて交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

有寿命部品 フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

●修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

●損害に対する責任

本製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中止、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

* 名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

保証書

持込修理

品名	ポータブルPAシステム	
※品番		
※シリアル番号		
保証期間	本体	お買上げの日から1ヶ年間
※お買上げ日	年月日 □□□-□□□□□	
お客様	ご住所	
	お名前	様
	お電話	

ご販売店様へ ※印欄は必ず記入ください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事を約束するものです。
お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示
の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。
ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書
など)をあわせてご提示ください。
(詳細は保証規定をご覧ください)

※販売店	店名	印
	所在地	
	電話	()

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015
東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル
TEL. 03-5652-3850

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、ヤマハ修理ご相談センター*にお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書または購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。
 - この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハ修理ご相談センター*にお問合わせください。
 - ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

* その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト
<https://www.yamaha.com/proaudio/>
ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>

© 2017 Yamaha Corporation

2024年3月 発行

IPES-E0



VHM5510